



- ① 継続した**マネジメント会議**の実施による、**官民が連携した事業化の検討**
- ② 多様な手段での**情報発信**による、**中瀬の取り組みの周知と市民を巻き込んだ社会実験を実施**
- ③ **自走していくための管理・運営を担うプラットフォーム**形成に向け、**組織体や事業スキームを検討**

#### <令和 6 年度 of 取組成果>

- マネジメント会議を設置・開催し、管理・運営を見据えた**事業化の方向性（組織イメージ）が明確化**。
- 各種社会実験を実施し、中瀬に求められる**ニーズと目指している方向性が合致していることを確認**。
- 講演会等に参加した市民との**将来イメージの共有化**により、**つながり（コミュニティ）が形成**。

#### <今年度（令和 7 年度） of 取組成果>

- マネジメント会議を開催し、先進事例を参考とした**組織体制や事業スキームを検討**。
- 生活情報誌「んだっちゃん」や市 HP、市 SNS 等による**広報活動**により、**中瀬での取り組みの周知や市民を巻き込んだ社会実験・ワークショップ等を開催**。
- 各社会実験の継続的な実施により、**事業化を見据えた具体的な取り組み内容や課題等について明確化**。

#### <今後の方向性>

- **社会実験を継続・充実**させるとともに、ハンズオン支援事業終了後の**自走を見据えた維持管理運営を担う組織体の設立・運用**と官民連携のための**事業スキーム（仕組み）づくり**。
- **新規プロジェクト**（拠点整備に向けた管理棟の基本計画策定、歴史等情報受発信のシステムの構築、地域連携商品開発）の継続的な取り組み

所在地：宮城県石巻市

主な用途：公園と水辺を活かした様々な  
体験・活動・交流・情報発信  
の場

#### ■ 位置図



## 1. 目的と背景

**持続可能な管理・運営の実現のため、官民連携による社会実験を通してマネジメント体制を構築し、管理・運営を担うプラットフォームの形成等の取組を推進**

- ・ 中瀬は震災後、移転元地を含む地区の大部分が公園区域に指定され、**活用方法等について検討してきたものの、具体的な成果は得られていなかった**。
- ・ 令和 5 年度にプレイヤー候補となる**有志と行政で土地利用ビジョンを策定**。
- ・ 令和 6 年度では、社会実験やマネジメント会議により**事業化の方向性を共有**。
- ・ 今年度は情報発信や社会実験を継続しながら、管理・運営を担う**プラットフォームの形成**に向けた検討を行う。



中瀬全景（R7.11）



工事の様子（R8.2）

## 2. 取組にあたっての課題

過年度の成果を受け、今後管理・運営を担う組織体の構築に向けては、以下のことが課題となる。

- ・ プラットホームの形成に向けた、マネジメント体制への移行
- ・ 社会実験の継続と充実及び事業化への移行
- ・ 新しい課題の解決のための組織づくりと社会実験等の活動開始
- ・ 維持管理運営を担う組織体の設立に向けた事業計画（案）の立案

## 3. 今年度の取組項目

これまでの社会実験やマネジメント会議を踏まえ、事業化や管理運営体制の構築に向け、以下の取組を実施。

### I 市民への情報発信と共有（共感）による、多様な主体の連携体制、取組継続と仲間集め

- ・ 生活情報誌や市報、SNS 等を用いた情報発信により、市民を巻き込んだ取り組みを実施。

### II 社会実験の継続的な実施と実際に継続可能な収支での事業化の取り組み

- ・ 今後事業化を見据えた、事業計画（案）の検討。

### III 管理・運営を担う組織づくりへの発展と、官民連携の収支構造・仕組みづくり

- ・ 継続したマネジメント会議実施による、組織体制や事業スキームの検討。

## 4. 取組経過や主な調整プロセス

### 5～8 月 官民のメンバーによる全体マネジメント会議を開催し、今年度の取り組み内容とゴールについて確認。各社会実験の実施や新プロジェクト始動に向けた準備・調整。

- ▶ 今年度のマネジメント会議は、各プロジェクトのリーダー等を主体とする体制へと変更し、プラットフォーム形成に向けた議論を進行。
- ▶ 市民を巻き込んだ中瀬ガーデンのガイダンスやWS、地元高校と連携したなかぜハニーの体験型社会実験を開催。p3-4 写真 1.3 参照

### 9～11 月 マネジメント会議を開催し管理・運営の方針をとりまとめるとともに、各種社会実験や情報発信、講演会、WSを実施。

- ▶ マネジメント会議を開催し、事例視察を踏まえた事業性の検討や将来の管理・運営体制について検討。
- ▶ 植樹WSや自然環境創造セミナー、BBQを実施。p3-4 写真 2.4.5 参照
- ▶ 新規プロジェクト（歴史等情報受発信、拠点整備、地域連携商品）の組織立ち上げについて検討・調整。p3-4 図 1.2 参照
- ▶ 生活情報誌「んだっちゃ」やチラシの配布による情報発信により、各社会実験の周知と参加者を募集。p3-4 写真 7.8.9 参照

### 12～3 月 マネジメント会議を開催し、プラットフォーム形成に向けた、管理・運営体制や事業スキームについてとりまとめる。

- ▶ 引き続き社会実験（冬のデイキャンプ）を実施し、事業性を検討。地元新聞記事に取り組みの様子が掲載された。p3-4 写真 6.10 参照
- ▶ 石巻版の官民連携手法【PFI（民間企業との連携）+CFI（造語：コミュニティとの連携）】を検討。p3-5 図 3 参照
- ▶ 先進地を参考とした管理・運勢組織「（仮）なかぜマネジメント」と市が連携した事業スキームについて検討。

#### ポイント①

継続したマネジメント会議の実施による、官民が連携した事業化の検討

#### ポイント②

多様な手段での情報発信による、中瀬の取り組みの周知と、市民を巻き込んだ社会実験を実施。

#### ポイント③

継続的に自走していくための管理・運営を担うプラットフォーム形成に向け、組織体や事業スキームを検討。



■ 取組成果や重要な検討資料等

【中瀬ガーデン】



写真1 宿根草デザイン WS



写真2 植樹活動(なかぜ園藝部)

【なかぜハニー】



写真3 地元高校生による採蜜体験



写真4 なかぜハニーの試食・販売

【水辺のデイキャンプ】



写真5 中瀬でBBQ (地元食材を使用)



写真6 冬のデイキャンプ

【生活情報誌やチラシによる情報発信】



写真7 生活情報誌「んだっちゃ」9月



写真8 WS チラシ



写真9 セミナーチラシ

【歴史等情報受発信】



図1 情報発信システムのイメージ

【拠点整備】

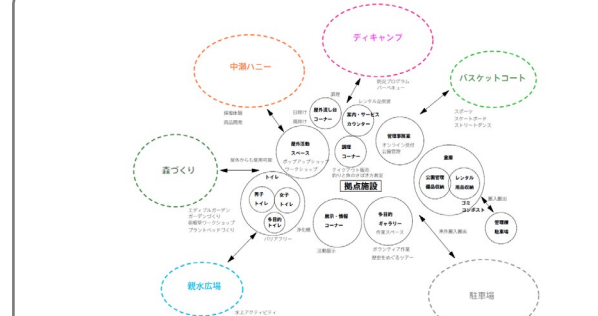


図2 拠点活動と必要機能

冬も満喫 中瀬デイキャンプ 官民で公園活用進行中



写真10 新聞記事 (R8.2.18) (提供: 石巻日日新聞社)

石巻日日新聞社  
〒986-0874  
石巻市実業団地17号  
電話 0225-95-5231  
7ヶ月 0225-94-4720  
編集局電話 0225-94-4424  
◎ 石巻日日新聞社 2026  
https://www.hibi-net.com

【管理運営体制・事業スキーム】

・中瀬公園土地活用マネジメント会議では、“地元企業が参画した特別目的会社とマネジメント会議を母体としたコミュニティが連携した組織体による整備から運営・維持管理までを一括して一定期間担うことのできる”事業スキームを検討。

・PFI的手法を取り入れつつ性能発注によりコストを抑え、市民が継続的に関わり続けられる仕組み「石巻版官民連携（PFI+造語：CFI※）」を目指す。

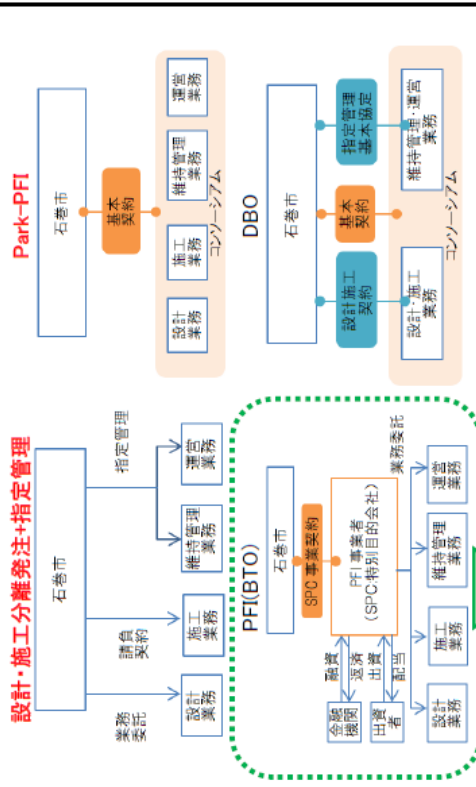
※CFI…Community Finance Initiative

事業手法：PFI（企業）+CFI（市民）=石巻版官民連携

○中瀬公園官民連携事業導入可能性調査（令和4年度）における事業スキームの検討結果

リスク低減等の必要な対応策を講じたうえで、従来方式+指定管理、P-PFI方式を採用することが適していると考えられ、これらを基本形として当地区での事業方式を検討する。

事業方式	概要
①設計・施工分離発注+指定管理	○従来の公共工事で行われてきた設計、建設、管理運営を年度ごとに分離発注する方式に、施設を民間事業者等に管理してもらう「指定管理者制度」を組み合わせた方式
②Park-PFI	○公募設置管理制度（Park-PFI）は、都市公園において飲食店、売店等の収益施設（公募対象公園施設）の設置と、公園利用者が利用できる特定公園施設の整備等を一体的行う民間事業者が公募により選定する制度。
③PFI(BTO)	○PFI(Private Finance Initiative)は、(民間が資金調達を担いしつつ、公共による補助金投入も期待できる中で)施設の設計・施工・維持管理・運営を一括して発注する方式。
④DBO	○DBO (Design Build Operate)は、PFIに類似した事業方式の一つで、公共が資金調達を担い、設計・建設、運営を民間に委託する方式。



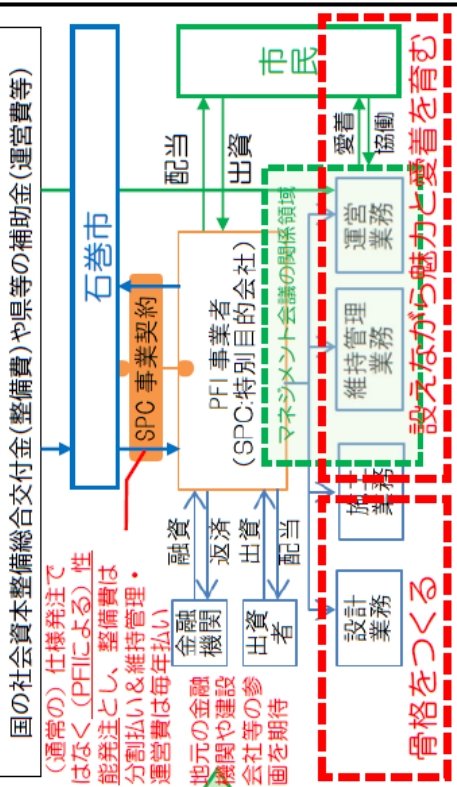
○PFI（地元企業連携）+CFI（市民連携）=石巻版の官民連携を実現させる事業イメージ（要研究）

○行政（石巻市役所）将来の安定的な財政運営を目指し、一般財源の1割以上の歳出削減が必要な状況

- 中瀬公園（Mishima）
- ①整備から発酵へ（プログラム）
- ②濃淡のある関わりと回遊（土地利用と動線計画）
- ③多様なコミュニティと地域共治（利用×運営）
- ④次世代の暮らしと経済（石巻の将来モデル）
- ⑤生物多様性（人間+生物）

①国等の補助金の有効活用  
国の社会資本整備総合交付金（整備費）や県等の補助金（運営費等）の有効活用を図る。

- ②事業費の抑制と参加型の整備  
行政は骨格をつくり、運営者・利用者がDIY（セルフビルド）的に設えることで、安全性を担保し、コストを抑え、魅力と愛着を育む。
- ③小規模分散化と段階的取り組みによる多様な参加機会の確保  
整備エリアや施設規模の小規模分散化と段階的取り組みにより、様々な市民の多様な参加機会を確保する。



骨格をつくる  
設えながら魅力と愛着を育む

図3 事業スキームと管理・運営体制の検討状況

## 5. 今年度の取組成果

成果1 マネジメント会議を開催し、先進事例を参考とした組織体制や事業スキームを検討。

- ▶ 過年度から継続したマネジメント会議での議論や先進的な取り組みを行っている事例地の組織体制を参考に、中瀬での組織体制や事業スキームを検討し、官民連携事業スキーム案を作成。

成果2 生活情報誌「んだっチャ」や市HP等による広報活動により、中瀬での取り組みの周知や市民を巻き込んだ社会実験やワークショップ等を開催。

- ▶ 中瀬の取り組みについて、生活情報誌「んだっチャ」や市HP、市SNS、新聞記事などのメディアで情報発信しながら社会実験やワークショップを開催したことで、延べ280人以上の参加があり、市民への浸透が進んでいることを確認。

成果3 各社会実験の継続的に実施により、事業化を見据えた具体的な取り組み内容や課題について明確化。

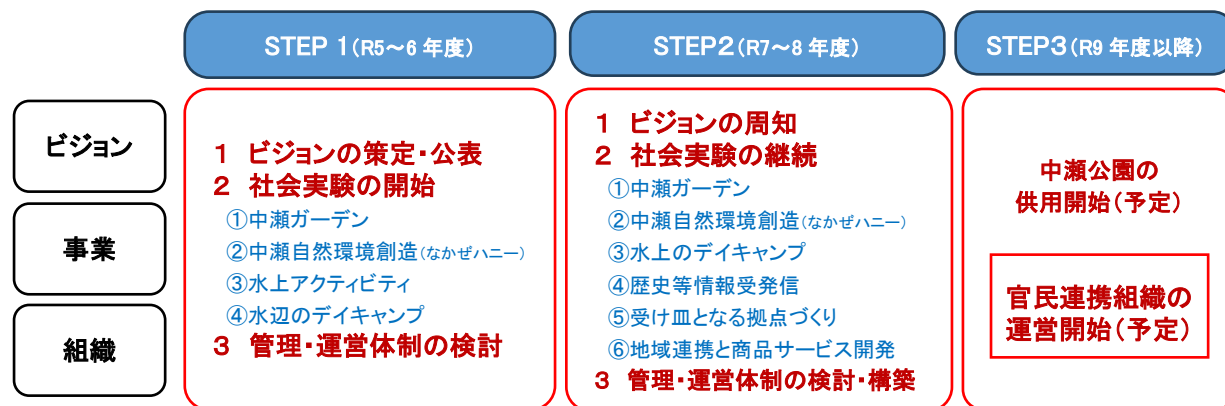
- ▶ 過年度から継続した社会実験の実施や事例視察により、事業化を見据えた調整すべき点や課題（価格設定や初期費用等、コアメンバーの確保）について明確化。

## 6. 今後の方向性

継続的な取り組みと将来の自走を見据えた維持管理運営を担う組織体の設立、事業スキームの検討

- ・ 社会実験を継続・充実させるとともに、ハンズオン支援事業終了後の自走を見据えた維持管理運営を担う組織体の設立・運用と官民連携のための事業スキーム（仕組み）づくり。
- ・ 新規プロジェクト（拠点整備に向けた管理棟の基本計画策定、歴史等情報受発信のシステムの構築、地域連携商品開発）の継続的な取り組み

中長期スケジュール・フロー図等



## 7. 取組主体・関係者の声

これまでの状況や今回の取り組みにおける工夫や苦労など

- ・ いくつかの公募型社会実験事業を実施することができた結果、マネジメントのメンバー、社会実験プロジェクトのメンバーともに、将来像のリアリティや実現化のイメージが高まった。
- ・ 各種メディアでの紹介により市民への周知が図られ、参加者から多くの意見や期待の言葉を頂くことができた。

ハンズオン支援事業で今回取り組んだ感想など

- ・ 復興庁との定期的な会議（意見交換）は、事業の進捗状況の確認・管理と課題の解決を図るための相談をさせて頂く上で重要な役割を果たし、大きな支援となった。



▲石巻市建設部都市計画課  
山邊主任技師（左）打矢係長（右）